

平成 29 年度 4 月 1 日訓示

平成 29 年 4 月 3 日

礼文町長 小 野 徹

「熱意があれば知恵が生まれる」

(松下幸之助)

～ 熱意というものがあれば、

そこに何とかしようと工夫が生まれ

成功の道が発見される… ～

みなさん、おはようございます。新しい年度を向かえ、新たに7人の新採用の皆さんを迎えたところであり、また、春の異動がありましたので多くの皆さんに辞令交付を行いました。いよいよ平成29年度の始まりであります。

まずは、新採用の皆さん、おめでとう。皆さんは大きな夢と希望を持って公務員の道を選ばれたわけであります。いろいろ不安な気持ちを抱えながら、また、期待に胸をふくらませていることと思いますが、皆さんが、今日、町職員としてのスタートを切ったことを嬉しく思いますし、心からお祝いを申し上げます。先ほど皆さんを代表して、内藤陽介さんが宣誓をされました。まさしく、その通りであり、特定の方の利益や、自分自身の利益を優先したりすることがないように、全体の奉仕者(リーダー)として、より高い、かつ、強い倫理感が求められ、仕事をしていくうえでの公平性や、常に正しく行っていくということが私達公務員でございます。

そうした難しさの中で、私たちには、地域を発展させ、町民の皆さんを幸せにするという大きな務めがあります。

そこで、最初に私から皆さんに申し上げたいことがあります。

さきほど、皆さんには「地域を発展させ町民皆さんを幸せにする大きな務めがある」という公務員としてのミッションのお話をしました。もちろん、皆さんには、公務員として働くにあたって、最大限の努力が求められるわけではありますが、私は、それ以上に、まず「熱意を持って素直に生きてほしい」と思っています。

これは、あの有名な松下幸之助さんの言葉であります。

「磁石は鉄を引きつけます。私たちの目には何にも見えませんが、磁石は見えない力で鉄を引き寄せます。

人が仕事をする。これから、皆さんが仕事をする上での心がけとして大事なことはいろいろありますが、一番大事なことは、素直さと誠実さがあふれる熱意であります。一生懸命になることなんです。 知識も大事、才能も大事です。

しかし、知識や才能がなければ本当に仕事ができないかというところではないです。

たとえ、知識が乏しくとも、才能が劣っていても、何とかこの仕事をやりとげよう!、何としてでもこの仕事をやりとげたい!、　そういう誠実な熱意にあふれていたならば、そこから必ずよい仕事が生まれてくるのです。もし、その人の手によって直接にできなくても、その人の誠実な熱意が、目には見えない力となって、自然に周囲の人を引きつけ、磁石が鉄を引き寄せるように、思わぬ加勢や味方を引きつけ、そこからは、人の助けもあったりして、できなかった仕事ができるようになります。

だから、熱意のない人は絵に描いた餅の如し。　知識も才能も熱意がなければ無に等しい。」…と、あの世界に誇る松下電器をつくり上げた「松下幸之助さん」はおっしゃっています。松下幸之助さんは、1894年明治27年に生まれ、1989年平成元年に94歳でなくなられました。小さいころから身体が弱く、9歳で丁稚奉公に出されたため小学校も卒業していません。でも、皆さんご承知のとおり、1918年大正4年に一代であの世界的企业である松下電器をつくりました。来年が100周年になります。

そして、昭和 39 年、もう 50 年以上も前になりますが、アメリカの「ライフ誌」に「最高の産業人、世界一の経営者」と紹介されたのであります。

同時に、「逆境であれ、順境であれ、その与えられた境涯に素直に生きること。素直さは人を強く正しく聡明にする。」ともおっしゃっており、置かれたところで花を咲かせる努力をすることの大切さも述べられているわけであります。

私は、その熱意や誠実さ素直さを会社経営の大きな柱に据えてたゆまない熱意と探究心によって、多くの製品が発明改良され、世界的にも揺るぎのない松下電器を作りあげた松下幸之助さんのこの言葉を十分にかみしめていただきたいと思います。新しく仲間になられた皆さんにこの言葉を贈って心からお祝いを申し上げ、若さあふれるフレッシュな感覚を発揮し、それぞれの仕事で、自分たちの能力を生かして、わが町に活力を与えていただくよう心から期待しております。

さて、先ほど人事異動の辞令交付をいたしました。

昨年から本格的にスタートした「地方創生」ではありますが、人口減少が進む今の日本。このままではふるさとの礼文島から人がいなくなってしまう危機的状態にあります。

こうした状況を打破しようと、一昨年、みなさんにも専門部会で素案づくりを担当していただいて、わが町の人口ビジョンと総合戦略ができあがりました。やらなければならないことは皆さんが感じているとおり明らかであります。

では、どうやったら、礼文島の特徴ある豊かな資源を活かした産業を振興させ、安心して働くことができる雇用を拡大して、新しい働く場を作れるのか、さらに子育て世代にどんな支援を行って、若者が魅力を感じる町にするのか、また、都会から礼文島にどうやって人の流れを呼び込むのか…であります。

あの有名な大リーガーのイチロー選手が「チームの勝利のためなら自分が主役にならなくてもいい…」と話しています。チームが勝利するには、打撃で力を尽くすこと、送りバントで貢献することもあるかもしれません。

あるいは守備で味方のピンチを救うこともあるでしょう。一人ひとりが勝利に貢献することが大事だと云うことであります。では私たちは、礼文町役場というチームのために、町民の幸せのために自分の力を尽くしているだろうか？ チーム一丸となって問題を解決しようと努めているだろうか？ 初めから「礼文島に人なんか来ないよ」「働くところなんてできないよ」と…、あきらめてはいないでしょうか？ 私はイチロー選手の言葉…「チームの勝利のためなら自分が主役にならなくてもいい…」という、力を合わせてチームの勝利に貢献する姿勢を、決してあきらめないという言葉を出してほしいのです。

そして、先ほど紹介したあの松下幸之助さんもこうおっしゃっています。

「やり方はわからないけれど、何としても成功させたいことがあるという人は“こうしたらどうだろう” “こうすればきっと喜んでもらえる” と工夫を凝らして考えます。そうした一生懸命な思い、熱意があれば、そこに何とかしようとする工夫が生まれ、成功の道が発見される」と…。

減少し続けているわが町の人口減少をくい止めることは本当に難しいことですし、雇用の場を創ることも至難の業と云われます。でも、礼文島には宝の海があり、豊かな水産資源があふれています。山に登れば希少な高山植物や美しい自然景観がたくさんあります…。

この礼文島にしかない豊かな資源をもっともっと利用することで働く場を創れませんか？

島の人たちが、健康で暮らせるしくみをつくり、安心して子育てもできるようにできませんか？ 観光においでの人たちに、もっともっと感動と癒しを感じていただけるようにできませんか？ これ以外にも、それぞれの仕事にいろいろな課題があると思います。

わが町の地方創生総合戦略は、こうした課題に対し、皆さんが力を合わせてどう具体的に実行するかなんです。

幸い、今日から「有人国境離島特別措置法」という新しい法律が施行されます。礼文島は全国 71 の国境離島に指定され、礼文島に人が生活できるようにするため、国が、あるいは北海道が様々な支援をしてくれますから、地方創生にこの

新しい国境離島の法律を使って、何を支援してもらうかを具体的に考えていただきたいのです。

特に、新たに事業を興そうとする人や事業を拡大したい人たちへの支援策は地方創生にとっても大きな効果が期待されます。

もちろん、漁業だけでなく、観光や商工業に対する支援策も必要で、この法律に限らず、離島振興活性化交付金や子育て、健康づくり、教育と云った地方創生関連施策など、皆さんが担当している仕事にも、地方創生に関するいろいろな制度法律がありますからそれらを自分の仕事にもっともっと活用してほしいのです。

できないとあきらめれば気楽になるでしょう。でも、それでは町の若い人達はどうなりますか？ 私たちのふるさとも消えてしまいます。町の皆さんも、また、遠くで私たちを応援してくださっている全国の多くの人たちの心の^よ拠りどころも無くなってしまうのです。「何としても二階に上がりたい。 どうしても二階に上がろう。 この一生懸命さ、熱意がハシゴを思いつかせ、階段をつくり上げたと思います。

上がっても、上がらなくてもどっちでもいいや…… そう考えている人の頭からはハシゴや階段という発想は出てこない」そう思うからです。

熱意をもって、誠実に、一生懸命やっている、それが周りの人に伝わり、周りの人を動かし、そして、だんだん自己中心的な考え方がなくなると云われます。 自己を捨てるということは自分をなくするということではありません。自分本位の考え方をやめて、チームに貢献するということです。自分のことだけを言っていたらチームは成り立ちません。役場も同じであります。 自己を捨てるというのは、自分より、まず相手が喜ぶことを先に考えるということです。

それは自己犠牲でなく、いい仕事をするということであって、町民の皆さんや役場というチームに貢献しながら自分も楽しく仕事をするという、そんな素敵な循環を作り出していきたいのです。それが、組織や社会の中において、充実した幸せな人生になるのではないかと思うのでございます。

人生はいつも真剣勝負です。一つ一つの懸命な努力を、役場職員として、お互いに、言わば、目頭を熱くするよう

な思いで理解し、それを生かしあっていく……そんな職員であってほしいと願っています。

結びになります。が、昨年 11 月 25 日、1.5 キロの「新桃岩トンネル」が開通いたしました。4~5 キロにわたって曲がりくねった危険な山道を通っていたことが嘘のようで、わずか 3~4 分で元地の海岸に行くことができるようになりました。

6 年を超える長い歳月を経て、夢だったあの西海岸、元地が本当に身近になりました。

夢を叶えるのは簡単ではないけれども、妥協することなく、やり遂げようとすれば夢は必ず叶うと云われます。

やらない理由を考えるのではなく、どうすれば解決できるのか一生懸命考え、工夫することを忘れないでいただきたい。そのひとつひとつが積み重なっていくその先に、私は必ず礼文町の明るい未来が開けてくると信じております。皆さんには、自分の職務に誇りと自信を持ち、存分に活躍していただくことを心から期待して、訓示といたします。